ニュースレター
2018年6月6日
積 水 ハ ウ ス 株 式 会 社
ﾀﾞｲｱﾛｸﾞ･ｲﾝ･ｻﾞ･ﾀﾞｰｸ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ

ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」夏休み限定プログラム、7月5日よりスタート

積水ハウス株式会社は、情報受発信拠点「SUMUFUMULAB（住ムフムラボ）」（グランフロント大阪）で定期開催しているダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン（本社：東京都中央区、代表：志村真介）との共創プログラム、ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」の夏休み限定プログラム「僕たちの夏休み」を７月5日（木）から8月27日（月）まで開催します。

期間中に同時開催する、自由研究応援企画、暗闇体験後に親子で点字を学ぶ「夏休みくらやみ教室」。好評を受け、より多くのご家族に提供するため、実施日数を昨年の9日間から14日間に、募集人数を合計54名から84名に拡大募集します。実施に先立ち、6月7日（木）正午よりチケット先行販売をWEBで開始します。

これまで世界41カ国以上で開催、800万人以上が体験した、暗闇のソーシャルエンターテイメント「ダイアログ・イン・ザ・ダーク（以下、DID）」。その暗闇を、子どもの教育に活かす動きが世界で広がるなか、世界で唯一、家族・家をテーマとするDID「対話のある家」では、もっと多くの親子に体験してもらおうと、2016年より夏休み限定の親子向けプログラムを開催しています。怖さと好奇心が交錯する暗闇で、視覚以外の感覚を研ぎ澄ませ、親密なコミュニケーションを楽しむ非日常体験が好評を得ています。

<暗闇体験「僕たちの夏休み」＋点字体験「夏休みくらやみ教室」>

今年の夏休み限定プログラムのテーマは「僕たちの夏休み」。“おじいちゃんの家“を訪れ、縁側や畳、線香花火、カセットテープレコーダーといった大人にはどこか懐かしい、子どもには新鮮なアイテムを視覚以外で体感し、各自の夏の記憶を呼び覚まし、会話を楽しみます。さらに、自由研究応援企画「触れる、感じる、見えてくる夏休みくらやみ教室」は親子で暗闇を体験した後「点字板」と「点筆」を使って、点字を打つワークショップに挑戦。暗闇を案内したアテンド（視覚障がい者）と一緒に点字作品を作ります。昨年は、覚えた点字で手紙を書いたり、体験したことを自由研究で発表して賞をとった子どももいました。暗闇体験で見つける新しい「気づき」と併せて、子どもたちの記憶に残る学びの場となることを目指します。

積水ハウス株式会社　広報部
（大阪）TEL　06-6440-3021　　（東京）TEL　03-5575-1740
（本社）大阪市北区大淀中1-1-88　梅田スカイビル　タワーイースト

<ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」開催概要>

	第22回（夏休み）プログラム 「僕たちの夏休み」	自由研究応援企画 「触れる、感じる、見えてくる 夏休みくらやみ教室」 （第22回プログラム＋点字体験）
開催場所	積水ハウス「SUMUFUMULAB（住ムフムラボ）」 グランフロント大阪　北館ナレッジキャピタル4階（大阪市北区大深町3番1号）	
開催期間	2018年7月5日（木）～8月27日（月） の40日間 (火曜・水曜定休)	7月21日（土）22日（日）23日（月） 28日（土）29日（日）30日（月） 8月４日（土）５日（日）６日（月） 11日（土・祝）13日（月） 18日（土）19日（日）20日（月） （合計14日間）
開催時間	午前11時より1日5回	午後0時30分より1回のみ
参加料金	大人3,500円／学生2,500円／ 小学生1,500円　（税込）	大人4,000円／学生3,000円／ 小学生2,000円　（税込）
所要時間	70分	90分（プログラム＋点字体験）
参加人数	各回・6人まで	
チケット発売	6月7日（木）正午～	
申込方法	予約状況・申込はWEBから　http://www.sumufumulab.jp/did/	
問い合わせ	「対話のある家」お問い合わせ事務局 0120-39-9683（11：00～18：00 ※土日祝日除く）	

「子どもたちの教育に、ダイアログ・イン・ザ・ダークを」

一般社団法人 ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ代表理事 志村 季世恵

ダイアログ・イン・ザ・ダークは、1988年にドイツで、哲学博士アンドレアス・ ハイネッケが発案したソーシャルエンターテイメントです。参加者は完全に光を遮断した空間の中へグループを組んで入り、暗闇のエキスパートであるアテンド（視覚障がい者）のサポートのもと、中を探検し、さまざまなシーンを体験します。

子どもたちがダイアログ・イン・ザ・ダークを体験すると、驚くことが起こります。内気な子が積極的になったり、時にはいじめられっ子がいじめっ子の手を引いてサポートしたりします。視覚障がい者とも、すぐに対等な関係を築きます。お母さんも、先生も、今まで全く知らなかった、たくましくて優しい姿がそこにはあります。ヨーロッパ、イスラエル、アジア各国ではDIDが課外授業に取り入れられ、多くの子どもたちが体験する仕組みができています。実は、日本以外では、世界の約６割の参加者が子どもたちです。日本でも、もっと多くの子どもたちに体験をしてほしい。DIDの暗闇体験を経験した彼らが大人になったときに、きっと社会は大きく変わると思っています。

<1万人以上が体験した、ＤＩＤと積水ハウスの共創プログラム「ＤＩＤ 対話のある家」>

積水ハウスは「生涯住宅」の思想のもと、長年にわたり「スマートユニバーサルデザイン」などの研究活動を続けてまいりました。その一環として、「感じる力」「関係性の回復」「多様性を認める」を目的に、対話する場を提供し続けるDIDとの共創プログラム「DID 対話のある家」を実施しています。「純度100%の暗闇」の中で、住まいにおける様々な生活シーンを体験し、日常では得られない気づきやコミュニケーション向上の機会を提供します。

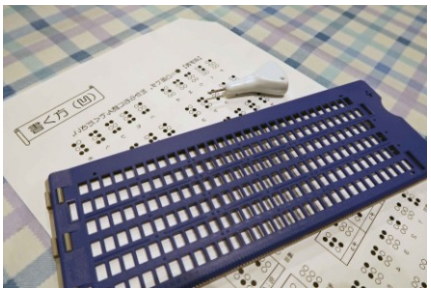
さらに、ブランドビジョン「SLOW ＆ SMART」を実現する、住まいの快適性を深化させる研究にも活かしてまいります。

見て触れて楽しめる
「DID 対話のある家」の展示も

<これまでの開催実績>

- 開催日数：2013年4月26日から開始、開催日数は計829日間（2018年5月30日現在）
- 参加者数：約16,705人／性別：男性40%、女性60%
- 年代：10代以下8%、20代29%、30代27%、40代22%、50代11%、60代以上3%
- クリスマス、お正月など、季節ごとに毎回異なるプログラムで実施。
  プログラムの合間には、スペシャル企画も開催しています。

<これまでの体験者の声>

- 1度目は主人と２人で訪れ、心の中にあたたかい灯のようにずっと残っていました。2度目は子どもが小学生になり、念願の家族そろっての参加がかないました。我が家に帰ってきたようなこの安心感や一体感、ほっとする感覚。懐かしくもあり、でも久しぶりではないようなこの気持ちが好きです。（36歳 女性）
- 想像していた以上に真っ暗で最初は驚いたけど、徐々に居心地の良さを感じて、今までに感じたことのない不思議な気持ちになりました。（45歳 女性）
- 体験後に、永らく家族と「対話」してないな。久しぶりに話してみようかな、大切にしたいな、という気持ちになりました。初めて会う方だからこそ、ふだん照れくさくて話せないことも話せる、素敵なイベントでした。（45歳 女性）
- 何があるのか分からなくて心配だった。でも知らない人とも話せば話すほど帰りたくなかった。暗い所の方が会話が大きくなった。とてもおもしろかったから、また参加したい。(10歳 男子)
- 暗いと何もできないと思ってたけれど、見えないからこそ聞こえる音があって、とても良かった。見方を変えるだけで、家の中でも「わくわく」がたくさんあると分かった。(13歳 女子)
- 普段の何気ない行動も、暗闇では全く別のものでした。体験の中で、珍しいことはしていません。でも環境が変化するだけで、驚く程に感じ方が変わる、素敵な体験でした。（男性）
- 声を出す大切さ、話すことの大切さ、子どもの声の愛しさ、隣に人がいる事の安心に気づかされました。体験出来て本当に良かったです。（35歳 女性）
- 音が聞こえることに喜び、安心、楽しさを感じました。私は両親が視覚障がい者で今まで嫌だと思ったことも正直いっぱいありました。でも、見えなくても、私のことを目以外で感じて、頑張っているところも、ちゃんと分かってくれていたのだろうなと思いました。（21歳 女性）

2017年開催
点字体験「夏休みくらやみ教室」の様子